

抗菌性試験の JIS 改正について

平成 27 年 7 月 21 日、JIS L 1902(繊維製品の抗菌性試験方法及び効果)が改正されました。以下に主な変更点を挙げさせていただきます。また、計算式等試験条件の変更があり、これまでの試験結果と必ずしも一致しない点があることをご了承ください。

今改正で用語の大幅変更がある関係上、周知期間を取るため、改正 JIS 適用は、2016 年 4 月からと致します。2016 年 3 月までは、2008 年版で試験を実施致します(2015 年版は依頼者の指定時のみ実施)。

JIS 改正による主な変更点

項目	旧版	改正版
活性値の呼称 変更 (静菌活性値、殺菌活性値の抗菌活性値への統一)	$S=(M_b - M_a) - (M_c - M_0)$ S=静菌活性値 M_b =標準布の 18 時間培養後の 3 検体の生菌数または ATP 量の常用対数値の平均値 M_a =標準布の接種直後の 3 検体の生菌数または ATP 量の常用対数値の平均値 M_c =抗菌加工試料の 18 時間培養後の 3 検体の生菌数または ATP 量の常用対数値の平均値 M_0 =抗菌加工試料の接種直後の 3 検体の生菌数または ATP 量の常用対数値の平均値	$A=(\log C_t - \log C_0) - (\log T_t - \log T_0)$ A=抗菌活性値 $\log C_t$ =対照試料の培養後の 3 検体の生菌数または ATP 量の平均値の常用対数値 $\log C_0$ =対照試料の接種直後の 3 検体の生菌数または ATP 量の平均値の常用対数値 $\log T_t$ =試験試料の培養後の 3 検体の生菌数または ATP 量の平均値の常用対数値 $\log T_0$ =試験試料の接種直後の 3 検体の生菌数または ATP 量の平均値の常用対数値
殺菌活性値の廃止	$L= M_a - M_c$ L=殺菌活性値	廃止 (抗菌活性値から対照試料の増殖値を引いたもので計算可能)
活性値の計算方法と数値の丸め方の変更	計算：3 検体の常用対数値の平均値を使用 丸め方：有効数字 3 桁	計算：3 検体の平均値の常用対数値を使用 丸め方：小数 1 桁
抗菌加工の種類	抗菌防臭加工、制菌加工	JIS 上での区分の廃止 (SEK マークでは引き続き使用する)
測定限界の扱い	検出されないものには不等号記号を使用	不等号記号は使用せず、限界値を使用する。「<1」→「1」とする
菌液接種時の界面活性剤の使用	原則使用	本文から削除、解説のみ記載 試験機関の判断で使用する
対照試料の変更	綿標準布を使用	未加工布を使用する 準備できない場合に綿標準布を使用
試験菌種	JIS に記載 5 種類の菌種のみ適用	黄色ぶどう球菌・肺炎桿菌を基本とするが、試験が成立する場合、どの菌でも適用可能

お手数をお掛け致しますが、上記内容に関しての質問等は抗菌試験担当者までご連絡ください。

以上